北海道短期大学
●「専修大学北海道短期大学」ホームページ●　http://www.senshu-hc.ac.jp

メールアドレス
nyushi@senshu-hc.ac.jp
ダイヤルイン（入試関係）
0126-63-0123

教員と共に考え、学ぼう

2010年度入学式　寺本学長が式辞

▲　歓迎の言葉を送る在学生代表の笹浪さん

自己の目標を見据えて

◀　式辞を述べる寺本学長

春の足音が聞こえ始めた4月6日、2010年度の入学式が本学体育館で挙行された。今年度は中国・黒竜江農業職業技術学院からの留学生らを含め、2学科合わせて144人が入学。新入生たちは多くのご父母らが見守る中、来賓、在学生らの祝福を受け、新生活のスタートを切った。

式には学校法人専修大学から湯浅敏明常務理事、来賓として美唄市の桜井道夫市長、専修大学北海道短期大学同窓会の英伴会長、専修大学育友会の菅沼堅吾会長らが列席した。

寺本千名夫学長は式辞で「皆さんは本日から学校、日常生活すべての面で、自分で考え、判断する自主性が求められるようになります。自分の性格を踏まえ、目標をしっかりと見据えて判断できるようになってください」と大学生活での心構えを話した。また、「皆さんは社会経済的に非常に厳しい時代に入学されました。講義を通じ、基礎的なことを勉強することはもちろんですが、さらに目の前にある現実の問題を学ぶこともしっかりとやってください。学びの方法はたくさんありますが、教員の研究室を訪ね、教員と一緒に考えることをおすすめします。どの教員もそれを待っています。一緒に考えましょう」と呼びかけ、「みんなで力を合わせ、実りある、『ここに来て良かった』と思える学校をつくり上げましょう」と締めくくった。

▲　新入生を代表して誓いの言葉を述べる加藤さん

来賓祝辞に続いて、在学生を代表して笹浪聖子さん（商経社会総合学科2・北海道美幌農業高）が「本学で過ごす2年間はあっという間に過ぎ去ってしまいます。この2年間を中身の詰まったものとするために、自分がやりたいと思ったことに、どんどん挑戦してください。また、素敵な友人を見つけ、たくさんの楽しい思い出をつくってください」と歓迎の言葉を送った。

最後に新入生を代表し、加藤永さん（みどりの総合科学科・北海道美唄工業高）が「歴史と伝統ある本学に入学できたことを、新入生一同心から喜ばしく思います。これから始まる2年間の学生生活では、多くの壁や困難にぶつかると思いますが、苦しみも喜びも新たな仲間と分かち合い、それぞれの夢に向かって精いっぱい努力します」と力強く、誓いの言葉を述べた。

みどりの総合科学科　新学科長に足達 准教授

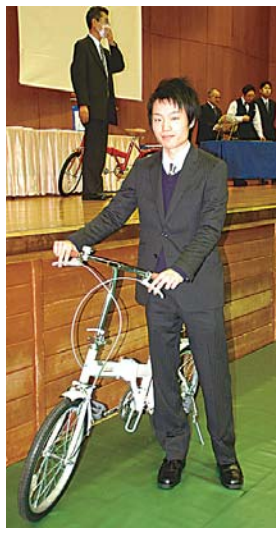
みどりの総合科学科の新学科長に足達健夫准教授が就任した。4月1日付。

足達学科長は北海道大学大学院工学研究科都市環境工学専攻博士課程修了。工学博士。1994年本学講師、2001年助教授。学生部委員会委員、図書館委員会委員、企画広報委員会委員、みどりの総合科学科副学科長などを歴任。主な担当は「環境と地域社会」「測量実習Ⅱ」など。

カリキュラムを説明　新入生の前途を祝う

学科ガイダンス　歓迎レセプション

入学式後、みどりの総合科学科は132教室、商経社会総合学科は134教室に移動し、「学科ガイダンス」が実施された。



▶　ビンゴゲームで折りたたみ自転車をゲット

教員紹介の後、足達健夫、森山軍治郎両学科長から2年間のカリキュラムや今後の学生生活についての説明が行われ、新入生とご父母らは、真剣な面持ちで説明を聞いた。

午後からは「新入生歓迎レセプション」（主催＝美唄市、専修大学北海道短期大学後援会、下宿アパート業協議会）が体育館で開催された。寺本学長をはじめ、来賓や教員、校友らが出席し、ご父母らとともに新入生の前途を祝した。

後援会の岸本邦宏会長のあいさつで開会。和やかな雰囲気の中、会場には「とりめし」「焼きとり」などの心づくしの料理が用意され、出席者たちは〝美唄名産〟に舌鼓を打った。また、美唄市を紹介したビデオが上映されたほか、デジタルカメラなどの豪華景品が当たるビンゴゲーム大会が開催され、多いに盛り上がった。会が進むにつれ、新入生同士も親睦を深め、メールアドレスを交換するなど、新たな交友関係を築く姿が見られた。

最後に日高文夫学生部長が新入生や保護者に向けて、新生活へのアドバイスを含めた歓迎の言葉を送り、盛会のうちに終えた。

▲　新たな友だちづくりの第1歩に（歓迎レセプション）

新家　憲前学長に名誉教授称号記を授与

4月1日、3号館第2会議室で名誉教授称号記の授与式が行われた。今回は前学長でもあるみどりの総合科学科の新家憲元教授に名誉教授称号記が授与された。

▲　寺本学長から称号記が授与された

本学の名誉教授は18人目。

みどりの総合科学科・岡田穣准教授　美唄高生が採取体験

シラカンバ樹液調査で連携

森林資源の有効活用について研究しているみどりの総合科学科・岡田穣准教授のゼミでは、毎年4月から5月にかけて、学内の演習林でシラカンバ（白樺）の樹液を採取し、樹液量の調査と、抽出資源の有効活用を探っている。

今年度は新たな試みとして4月6日に、美唄高校の生徒を招き、採取体験を行った。参加した生徒たちは真剣な面持ちで採取の様子を観察。実習後には、だし汁の代わりに樹液を鍋に加え、しゃぶしゃぶの要領で食材を試食。「食材が柔らかくなった」「味がまろやかになった」など、大きな驚きと関心を持っていた。

岡田准教授は「今回は美唄高校との連携の第一歩。今後は研究室の学生も交えお互いにアイデアを出し合い、オリジナルの食品や商品開発を進めていかなければと考えています」と展望を語った。

また、同研究室では4月24日から29日まで、札幌市で試飲フェアを開催する予定。詳しくは本学ホームページでご確認ください。

▲　シラカンバの樹液採取の要領を示す岡田准教授

キャンパス情報

◇特別研修期間について

前期授業期間のうち、4月29日（木）から5月5日（水）までのゴールデンウイーク中は特別研修期間となります。

期間中は全学科の授業および、窓口業務を行いませんので、ご注意ください。

また、後期授業期間では、10月11日（月＝体育の日）は平常授業を実施します。